

国語科通信(3学年) その2

気になる「ことば」から～「ご時世」について～

令和2年4月27日

「こういうご時世ですから…」。「時世」ということばをこの数ヶ月本当によく聞きませんか。なんだか気になります。

「ジセイ」と打つと、出てくる漢字は他に①「時勢」②「自制」③「時制」④「自省」⑤「自生」⑥「辞世」…あります、あります。漢字テストで出題されたら結構混乱しそうなものばかりです。

あらためて「(ご)時世」の意味を辞書で確認してみました。「その時々によって他の時代とは政治体制・世相・人心などが異なる、それぞれの時代。」(三省堂『新明解』)せちがらいご時世だから…などはこれまでもよく聞きます。

辞書の意味は、わかるようでわからないところもあります。ことばの意味を「くっきり」させるには、用例が大切になります。前後にくることばから、その意味用法を探っていきます。

今よく耳にする「ご時世」は、「こういうご時世だから、来週の旅行は中止にします」「こういうご時世だから、無観客試合も仕方ありません」といったものです。「ご時世」の後には、「仕方がない、

諦めよう」といったことばが続きます。望ましくない時代の風潮のような意味が専らな気がします。

今よく耳にする「こういうご時世」とは、感染症の拡大の中、とにかく自粛を求めるといった世間からの無言の「同調圧力」と言ってもよいのかもしれませんが。そして、それに従わざるを得ない残念さや無念さも含んでいます。

「ご(御)」がつくことにも実はカギがあるように思います。「御」は接頭語と呼ばれるもので、敬語のひとつと考えてよいのですが、先ほどの辞書で確認すると、「話題に上った語につけて、その語を美化するとともに、表現全体に丁寧さを添えるのに用いられる。」とあります。

「ご説、ごもつともです。」「遊んで暮らせるなんて結構なご身分なこと」「たいしたこともないのにご大層なこと」などと使います。踏み込んだ解釈をすれば、自分たちの力の及ばない力や権力への揶揄に近い感情も含まれているように感じます。それは、どこか「他人事(ひとごとと読みます。)」な感じも与えます。自分ではどうにもできないのだから…。あくまで、決定の責任は実体のない「時世」にあるのです。何でもかんでも「ご時世」と言っていると

「思考停止」に近くなるかもしれない等々…なんだか気になっていました。

そして、こう書きながらも気付くのですが、「ご時世」と盛んに、(もしかしたら「楽観的に」)口にしていたのは、3月中旬までだったように思います。

今は、誰かに言われたからではなく、本当に、ひとりひとりの自覚と責任においてさまざまなことを「自粛」しなくてはいけない。「ご時世だから」とは、もはや口にするのが恥ずかしい…そういう状況にあると思いませんか。

ところで、①「時勢」は移りかわる勢い。時代の趨勢。これもゴジセイと使われるようですが「時世」と近く、用法に迷いそうです。

②「自制」は「自制心」のジセイ、おき出しにしたくなる自分の感情や欲望を抑える(=制御)こと、と先の辞書にあります。「おきだしにしたくなる」という表現が少し面白いです。

③「時制」は英語で問題にする過去現在未来などの法則、構造。

④「自省」は自ら、反省すること。『自省録』は有名ですよ。

⑤「自生」は植物がひとりでに生えること。野生ともあります。

⑥「辞世」は死に際の詩や歌など。「世を辞す」。「辞す」は、別れ

を告げる、こぼむ、辞める、気にかけるといった「多義語」です。漢文の学習の際にも気をつけてください。

「言葉」は時代を映す。「言葉」の意味は、単体で把握できない。前後の用例、文脈から決定されるということを念頭に、まずはこまめに辞書を引き、用法を確認しながら身につけていきましょう。

一問一答方式ではなかなか語の意味は頭に入ってきません。古語の学習も同様です。面倒がらず、ニュアンスや、用例を大切に「覚える」というより「理解」するようにしてください。そして、実際に使うことです（論述で、作文で、使ってみるということです）。

古文で言えば、自力で訳出すること、これにつきます。